

葛西臨海水族園（仮称）整備等事業
技術審査委員会
議事録

<目次>

第1回	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業	技術審査委員会	1
第2回	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業	技術審査委員会	4
第3回	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業	技術審査委員会	5
第4回	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業	技術審査委員会	10

第1回 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業 技術審査委員会

日時 令和3年12月2日（木） 14:00～16:00

場所 東京都庁第二本庁舎7階 7A会議室及びオンライン

議事

- (1) 委員長の選出
- (2) 事業概要
- (3) 技術審査委員会の流れ
- (4) 落札者決定基準

1. 委員長の選出

設置要綱第4条の規定に基づき、倉淵氏を委員長として選出。

2. 事業概要

○事務局 事業概要について、資料に基づき説明。

3. 技術審査委員会の流れ

○事務局 技術審査委員会の流れについて、資料に基づき説明。

○委員 設計に関わる部分、維持管理に関わる部分等、様々な視点から審査することになるが、専門外の分野についても適切な判断ができるよう、提案におけるそれぞれの項目の要点をまとめる必要がある。

○事務局 提案の要点をまとめたものを参考資料として準備したい。

○委員 それぞれの分野の専門である委員の意見を参考に評価できるプロセスがあると適切な判断がしやすい。

○委員 専門外の分野は評価が難しい部分ではあるが、一般市民としての目線で評価することは可能である。

○委員 提案書の様式に枚数制限はあるか。

○事務局 枚数制限を定める予定である。

4. 落札者決定基準

○事務局 落札者決定基準について、資料に基づき説明。

○委員 本日時点の落札者決定基準に示されている内容は、要求水準書等に反映されるか。

○事務局 要求水準書の中で特に重要と思われる内容を加点項目として参照し、落札者決定基準案を作成している。

○委員 「施設整備に関する事項－建物計画－平断面計画」における「動線計画」において、「繁忙期でも滞留が発生せず、空間的なゆとりを確保するよう」との記載があるが、今後発生し得る感染症対策を踏まえた評価になっているか。

○事務局 「施設整備に関する事項－建物計画－設備計画」において「コロナウィルスなど感染症対策を考慮した計画となっているか」という評価項目を記載している。

○委員 ソーシャルディスタンスという観点は設備計画には含まれないため、感染症対策への配慮について、提案で示してもらいたいことが望ましい。

○委員 事前の委員からの意見に基づいて修正が行われているようだが、内容は意見の趣旨に沿っているか。

○委員 的確に反映されている。

○委員 アニマルウェルフェアの観点から今後、事業期間の中で大きく変わるであろう水族園に対する考え方の変化に対応できるようにしておく、もしくはできるだけ配慮しておくことが良い

と考える。

- 委員 審査の考え方はどこまで開示するか。
- 事務局 入札公告時に落札者決定基準を都のホームページで公表する予定である。
- 委員 特に応募者が多かった場合、審査の際には分野ごと、委員の意見を整理した資料を準備してもらいたい。
- 委員 事業者の提案内容について、契約後、指定管理者との協議の結果、事業者の提案した内容が結果的に実施できないという場合もあり得るか。
- 事務局 自由提案事業については指定管理者との協議も必要であり、実現性が不確かな部分はあるが、原則として事業者は提案内容を遵守して履行する義務が生じる。
- 委員 法的な拘束となるか。
- 委員 契約上、提案した内容を実施すること、要求水準を満たすサービスを確保することを約束することになる。実際に、それらが守られているかはモニタリングを通して都がチェックをする。その際に要求水準未達と判断した場合は勧告をし、それでも改善されない場合は契約解除となるため、契約で担保されている。
- 委員 指定管理者の決定前に実現可否を判断できないものは、提案にて評価しないという判断もあり得る。
- 事務局 実現性という観点から、提案として適していない内容が示される可能性もあると思われるが、その際は都から提案の妥当性を申し添えて審議いただくことを想定している。
- 委員 展示や教育普及事業は特に指定管理者との調整が難しい。「展示計画」にはICT等の取組みについて記載があるが、展示計画は具体的に提案してもらうものか。また、継続的に使用する施設であるため、柔軟な展示に対応できる計画性も問うべきと感じている。
- 事務局 当初の展示計画の提案は本業務に含まれており、指定管理者との協議によって変更が生じる可能性があることを予め示した上で提案を受ける予定である。展示の更新については、指定管理者が対応することを要求水準書に記載しているが、フレキシブルな設計については要求水準書上も明記しており提案事項としている。
- 委員 プレゼンテーションでは、パワーポイントを使用することが想定されるが、写真を見せる場合、提案書に記載した写真のみを使用可能とする等の整理が必要である。プレゼンテーションの資料は、その場で見ただけなのか、配布されるのかについても確認してもらいたい。
- 事務局 プレゼンテーション資料の取り扱いについては今後整理したい。
- 委員 プレゼンテーションで動画使用は認めるか。
- 事務局 学識経験者からの意見として、動画の印象による審査への影響や、提案書と異なり再確認が困難であるという背景から一般的には使用不可としている事例が多いと聞いており、本日、委員の意見を聞いて決定したい。
- 委員 プレゼンテーションの際は、提案書に記載した内容以上の説明をすることはできないとすることが一般的であるが、その点を踏まえて検討する必要がある。
- 委員 映像や模型のインパクトに印象が引っ張られてしまうことを懸念している。審査項目に沿った説明を冷静に吟味して判断すべきなので、作品的な美しさによって審査に影響が出てしまう媒体は避けた方が良く考える。
- 委員 模型や動画の静止画を提案書・プレゼンテーション資料に張り付けることは可能として、動画や模型は使用不可とすることで問題ないか。
- 一同 異議なし。
- 委員 審査プロセスについて、各委員が採点した後、委員間で協議した内容を踏まえて自身の採点結果を見直すプロセスがあるか。
- 事務局 事前に仮採点いただき、第4回審査委員会の事業者プレゼンテーションを経て委員間で意見交換して採点を決定していただくことを予定している。
- 委員 第3回審査委員会ではどのような議事を予定しているか。
- 事務局 第3回審査委員会で提案の概要を把握し、意見交換したうえで、第4回審査委員会では事前に各委員が仮採点した案を踏まえて最終的な採点をするという流れを想定している。詳細は

第2回審査委員会の際にご相談したい。

- 委員 アニマルウェルフェアに関する将来の水族館の考え方について、現在日本動物園水族館協会では、動物福祉に関する新しい基準を整備しているところであり、世界動物園水族館協会では2023年を目途に動物の福祉基準の達成を求めている。「取組方針」の評価項目にて「水族館のトップランナーとしての先進性」という文言があるが、アニマルウェルフェアという言葉として記載することも可能ではないか。
- 委員 アニマルウェルフェアの観点ではゆとりのある水槽設計が必要となるが、水量にも制限があるため、要求水準書に記載して評価することは難しい。
- 委員 今回の意見等を基に、落札者決定基準の修正については委員長と事務局で調整した上で、事務局でとりまとめ、各委員にご確認頂くことで異議ないか。
- 一同 異議なし。

第2回 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業 技術審査委員会

日時 令和4年3月16日（水） 9:30～12:00

場所 葛西臨海水族園

議事

(1) 技術審査委員会（加点審査）の進め方

1. 技術審査委員会（加点審査）の進め方

- 事務局 技術審査委員会（加点審査）の進め方について、資料に基づき説明。
- 委員 基礎審査を通過した応募者の提案は全て採点、ヒアリングを行うか。
- 事務局 基礎審査にて要求水準の充足確認を行い、要求水準を満たしていない場合は失格となるが、要求水準を満たしている提案は全て採点、ヒアリングの対象となる。
- 委員 応募者数の想定は何社程度か。
- 事務局 入札に関わる部署は入札参加表明の数を把握しているが、都の規定により情報は共有されないこととなっている。
- 委員 担当分野の仮採点は必須となるが、本採点で全項目を審査することを見据えて、第3回技術審査委員会では担当分野に限らず発言してもらいたい。
- 委員 現地見学ではメンテナンス性等の課題が説明されたが、特に重視すべき点は審査項目に含まれているか。
- 委員 関連して、本日説明のあった配慮すべき事項は事業者を示されているか。
- 事務局 事業者向けの現場見学を行い、同様に課題を説明している。設備更新への配慮は要求水準書にて示しており、当然提案されるものと考えている。
- 委員 事業管理の項目について、事業者は当然黒字の収支計画を提出するものと考えてよいか。
- 事務局 新水族園の運営は別途指定する指定管理者が行い、PFI 事業者には効率的な維持管理を求めるものであり、収益性を期待する事業ではない。ただし、レストラン・カフェ運営は事業者の独立採算事業なので提案に期待したい。
- 委員 仮採点の担当分野では取組方針の担当委員がいないが、新水族園の理念やビジョンは根幹にかかわるものであり仮採点すべきではないか。また、これに限らず担当分野以外の仮採点も可能か。
- 事務局 本日提示した担当分野は事務局案であり、取組方針を含め担当分野以外も是非ご意見いただきたい。

第3回 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業 技術審査委員会

日時 令和4年8月5日（金） 9:00～12:00

場所 東京都庁第二本庁舎5階 5B会議室

議事

- (1) 基礎審査の進捗報告
- (2) 加点点評価項目（担当分野）の確認
- (3) 応募者への確認事項の確認
- (4) 今後の流れ

1. 基礎審査の進捗報告

○事務局 基礎審査の進捗状況について説明。

2. 加点点評価項目（担当分野）の確認

○事務局 担当分野の加点点項目について、資料に基づき説明。

1-1 取組方針

- 委員 INOCHI グループは、対話をコンセプトにしており、水族園がバウンダリー・オブジェクトとして位置づけられることは国際的にも珍しく、評価できる。
- 委員 TAL グループは水族園を公園の中に取り込んでおり、周辺との繋がりを感じて高評価とした。
- 委員 INOCHI グループの対話を重視して体験を深めていく計画を評価した。TAL グループは持続可能性や環境配慮に重視した取組方針を評価した。
- 委員 INOCHI グループは、事業計画における6つの機能を具現化するために取組方針を示しており、評価した。また、飼育繁殖のための設備を提案しており、評価に値すると考えた。TAL グループは、環境保全を中心に謳っており、One Health を実践していると感じ、評価した。動物園・水族園では動物福祉が重視されてきているが、両グループとも動物福祉の観点での提案はなかった。

1-2 実施体制

- 委員 INOCHI グループは、各業務担当企業がバランス良く出資しているが、責任の所在が曖昧で意思決定が取れないのではないかとと思われる。一方、TAL グループは代表企業の意思が優先され、責任の所在がわかりやすく業務を円滑に進めやすいと考えた。
- 委員 INOCHI グループは、実績豊富でバックアップ体制がしっかりとしているが、出資比率や業務実施体制を勘案すると、迅速な意思決定への対応については確認が必要と考えている。TAL グループは意思決定が代表企業であることが明確だが、バックアップ体制への記載があまりなかったため、確認が必要と考えている。
- 委員 INOCHI グループは、実績豊富であり、指定管理者や都との連携が提案されていたため評価した。
- 委員 INOCHI グループの出資比率については他の委員と同様に考えている。また、開業前と開業後で統括業務責任者が異なっていることや設計段階に維持管理企業が関与しない点が不安要素である。

1-3、1-4、1-5 事業のマネジメント方策

- 委員 INOCHI グループは、現在の技術水準による視点が強く、技術革新によるリスクやチャンスについての視点が弱い。TAL グループは自然災害に対してのリスクの視点が無い点が気になった。
- 委員 モニタリングとリスク管理の観点を重視した。INOCHI グループは、代表企業がモニタリング

に特化しており、客観的な実効性のあるモニタリング体制となっている。一方、事業管理は都や指定管理者との連携に対する配慮がよりされている TAL グループの提案の方が優れていると考える。

- 委員 両グループとも新たな技術を取り入れる提案になっているが、期待した機能が得られないリスクに備えた代替技術の提案が必要ではないか。TAL グループは、引っ越しの際の生物の移動についての配慮の記載があったため評価した。

1-6、1-7 経営方針

- 委員 十分な資金調達が計画されているか、事業期間中に資金がショートしないかを重視して確認したが、両者問題ないと判断した。
- 委員 約 30 年間の事業計画を評価するのは難しく、経営方針単独ではあまり評価できないが、実施体制での責任の所在が事業の継続性に繋がると考える。

2-1 配置計画、2-2 景観・外観計画、2-3 平断面計画

- 委員 配置計画は、両グループとも高評価であった。INOCHI グループは、敷地の高低差を利用した外観、また、来園者と管理者の明確なゾーニングを行っている点を評価した。TAL グループは、景観・外観計画が周辺環境に溶け込む計画となっており、また、自然エネルギーを活用した循環型建築である点を高評価とした。平断面計画では、INOCHI グループはエネルギーセンターや屋外ろ過設備を分離して設置し、大規模修繕やリニューアルに配慮された使いやすいつ計画となっており、将来的に柔軟な対応ができる点を評価した。
- 委員 両グループそれぞれ優れた提案と考えている。将来的なメンテナンス性を考慮して INOCHI グループの方が適していると判断した。
- 委員 INOCHI グループは、公園利用者にとってアクセスしやすい場所に無料施設やレストラン、ショップが設置されている点が評価できる。在来種の保存や自然豊かな外構を里山展示と組み合わせる方がよりよい提案になると思われる。TAL グループは屋上を公園利用者に開放する計画が優れている。
- 委員 平断面計画では主に観覧動線を重視した。INOCHI グループの観覧動線は自由度が高く、コンセプトとマッチして評価できる。ただし、研究エリアが限定的であり、十分な広さが確保できているか懸念される。TAL グループは、ショートカット動線を設けるなど工夫をしているが、自由に観覧ルートを選択できるような提案にはなっていなかった。
- 委員 INOCHI グループは、レストランの運営動線にも配慮しており、使い勝手が良い印象を受けた。TAL グループの提案の屋上施設は、風よけや日よけがないため、快適性に疑問がある。
- 委員 平断面計画について、INOCHI グループの提案は展示替えの自由度が少ないと感じた。TAL グループは配管類が複雑化し、更新性について疑問が残る。
- 委員 両者とも海からのアクセスが重視されておらず、確認が必要と考えている。また、研究施設やレクチャーホール、準備室等の設備が不十分であると感じた。
- 委員 INOCHI グループはろ過槽を屋外にしている点で更新しやすい計画となっている。ただし、屋外に設置しているのはマグロ水槽のろ過槽のみで他のろ過槽は地下に設置されている。また、屋外の機材は潮風の影響による劣化について懸念が残る。

2-4 展示計画

- 委員 INOCHI グループはバックヤードを見せることを踏まえた提案となっており評価できる。TAL グループは見せる部分・見せない部分が分かれているため、バックヤードツアーを見せる工夫が欲しかった。
- 委員 INOCHI グループは、対話を重視しており、可動式ワゴンやラボ等のインタラクティブなコンテンツの提案を評価した。TAL グループは、学校教育で利用しやすい展示計画が都の施設の在り方として評価できる。
- 委員 INOCHI グループは基本構想を意識し計画されており、多様な視点から楽しめるつくりとなっ

ている。また、参加型の展示については指定管理者との連携で更に充実させる必要がある。TAL グループは全体的に展示の工夫がみられたが、深海や極地の展示においては最新技術の活用など工夫があっても良い。

- 委員 将来の動物福祉を勘案すると、ICT 設備を導入しておくことは評価できる。技術的には今後、深海でも通信ができるようになり、技術の進化に応じた内容の更新が期待される。TAL グループの提案は、没入感ある体験が重視されていた。
- 委員 INOCHI グループは対話を促すしくみを取り入れている点が評価できる。TAL グループは、水族園内展示で完結せず、フィールドへといざなう展示となっている点が評価できる。
- 委員 両グループともバリアフリーに配慮され、様々な人がアクセスできるようになっているが、展示計画については視覚に頼っているものが多いため、視覚障がい者が楽しめるよう配慮されたい。
- 委員 INOCHI グループは対話がテーマとなっているが、水槽展示においては対話というテーマが伝わってこない。

2-5 設備計画

- 委員 INOCHI グループは、BIM 等の最先端の技術を取り入れていく姿勢が見られ、熱源として複数の選択肢がある点を評価した。TAL グループの設備計画の提案は、海外では一般的であるが、日本ではあまり普及していない技術であり、設備計画に不明確な点があった。
- 委員 INOCHI グループは、展示生物の特性に応じた飼育環境の提案が優れているが、これらの技術には発展途上のももあり、設備計画の段階から指定管理者との密な協議が必要となる。TAL グループのマグロの飼育環境に関する技術開発は魅力的だが、それ以上に飼育が困難な深海、採集と展示に課題がある極地などへの提案に不足がみられた。
- 委員 TAL グループが提案するろ過システムは大規模な施設での導入実績がないため、挑戦的な提案ではあるが、実効性に疑問が残る。
- 委員 INOCHI グループは電源設備等の大きな設備が別棟になっている点を維持管理のしやすさという面で評価した。TAL グループの提案する新たな設備についてはメンテナンスコストの増加等が懸念される。
- 委員 両者とも汽水を使用した飼育水を提案しているが、汽水は排水時に浄化されているため、水を利用する施設として評価でき、施設や事業の説得性を増すものと考えている。

2-6 安全計画

- 委員 INOCHI グループは、TAL グループも同様であるが、構造計画が液状化対策に資する計画となっている。また、商用電源が止まった場合の機能維持に関する提案も評価した。
- 委員 INOCHI グループの段差のないフレキシブル空間の提案は評価できる。TAL グループは避難ルート of 明確性を評価した。
- 委員 INOCHI グループは、魚病および動物感染の対策について配慮されていた。TAL グループは、非常時に 1 階だけでなく 2 階からも地続きで避難できる経路があることが優れていると評価した。
- 委員 INOCHI グループは AI カメラの活用による警備員の配置が評価できたが、TAL グループは、非常時の対応が書かれておらず、懸念される提案であった。
- 委員 INOCHI グループのコージェネレーションを活用して非常時も空調が利用できる点が、帰宅時困難者対策にも配慮した計画となっており、評価できる。

2-7 環境負荷計画

- 委員 いずれも要求水準を満たす内容であったが、INOCHI グループは太陽光発電による創エネルギーをかなりの規模で実施しており、都が推進している「HTT」の方針に合致した姿勢を評価した。
- 委員 具体的な削減効果は確認できなかったが、TAL グループは水環境への配慮を強調しており、

水族園として相応しく、評価した。

- 委員 INOCHI グループは、パッシブ手法を積極的に導入する点や全樹木調査を通じた植栽計画が優れている。TAL グループの省エネ計画は優れているが、その効果について十分な事前調査が必要である。
- 委員 INOCHI グループの移植樹木の取扱いについて、移植先の造成が必要であるが、仮植えの計画が読み取れないため懸念される。

2-8 バリアフリー計画

- 委員 INOCHI グループは、「都立建築物のユニバーサルデザイン導入ガイドライン」、「TOKYO 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」に基づくバリアフリー計画を実行すると明記している点の評価した。また、両者とも多言語対応はあまり明記されていないため両者に確認したい。
- 委員 INOCHI グループは、バックヤードのバリアフリー化を実現する点が優れている。他方、外国語対応や視覚障がい者向けの工夫がない点が懸念される。TAL グループは、車椅子に対応できるバリアフリー計画が評価できる。
- 委員 INOCHI グループは、避難ルートは確保されているものの、地下1階からの避難手段について懸念される。

2-9 施工計画

- 委員 アクリルパネルの品質確保のための工期が両者異なる点が気になった。TAL グループの BIM 活用の提案について、情報管理上は理想的であるが、現時点では実現が難しい技術であるので、実現可能性の確認が必要である。
- 委員 TAL グループは設計及び許可申請期間が短いのではないかと懸念している。

3-1、3-2、3-3 維持管理業務に関する事項

- 委員 INOCHI グループは、太陽光発電、BEMS の導入による継続的な省エネ対策、雨水利用の最大化が評価できる。TAL グループは、デジタルコンテンツの更新がどのように行われるのか疑問であった。また、臨海部の環境に配慮した長寿命機器類について具体的に記載されていなかった。
- 委員 INOCHI グループの 30 年間大規模修繕が必要ない計画は魅力的である。また、外構を生態系管理の手法で管理すること、屋上緑地を在来種の草地として管理する点が優れている。TAL グループは、省エネ、省メンテナンスに関して詳細な計画を提案している点が優れていると感じた。
- 委員 INOCHI グループは、メーカーと連携した保守体制であり、詳細に費用を見込んでいると感じた。TAL グループは、内製化による修繕コストの削減策を評価した。
- 委員 両者遜色ないという印象であるが、従業員研修には水族園のミッションやその特徴の理解も含めるべきである。
- 委員 INOCHI グループは清掃の頻度が多く評価できると考えた。TAL グループは、ICT 機器を効果的に用いた清掃業務等が評価できた。
- 委員 TAL グループは、スタッフ養成計画が体系的であり評価できた。
- 委員 INOCHI グループは接遇を重視しており、TAL グループは最新技術の導入を重視しているという印象であった。
- 委員 INOCHI グループの園独自のマナーマニュアル作成が評価できた。TAL グループは多様性を意識した点が評価できた。
- 委員 防災・防犯に関しては、両者一般的な提案と判断した。
- 委員 INOCHI グループは展示生物に配慮した警備計画となっている点が評価でき、TAL グループは緊急時対応の詳細が定められている点が評価できた。

4-1 レストラン・カフェ運営

- 委員 INOCHI グループは利用者の多様なニーズを反映しているが、公園利用客と水族園利用客の動線に課題がある。TAL グループの提案に関して、施設内の飲食については議論の余地がある。
- 委員 利用者目線では、レストランはまとまっていた方が利便性が高いと思われる。INOCHI グループの展示エリア内のカフェについては、混雑時の対応も含めてあまり評価できないと考えている。
- 委員 両者とも MSC、ASC 認証食材の活用、フードロス低減策等の優れた提案であったが、国際的には標準を超えるレベルではない。
- 委員 INOCHI グループは来園者ニーズをとらえた提案となっているが、繁忙期の混雑時対応に課題がある。混雑時対応という面では、TAL グループによる決済方法等の工夫の提案が評価できた。

3. 応募者への確認事項の確認

- 事務局 応募者への確認事項について、資料に基づき説明。
- 委員 評価の対象は提案書が原則とのことだが、プレゼンテーションを聞いて評価を変更することは可能か。
- 事務局 プレゼンテーションは、提案書に記載の内容をわかりやすく表現する場であり、新たな提案は認めていない。プレゼンテーションで提案内容を再確認し、その後に最終的な本採点を行っていただきたい。
- 委員 プレゼンテーションの実施前であっても、各委員は慎重に採点を行うようお願いする。
- 委員 採点は、両グループが同じ評価とならないように採点した方が良いか。
- 委員 一人ひとりが等しい基準で客観的に評価すれば、全員の評価を統合すると自ずと点差がつくと考える。虚心坦懐で採点することが望ましい。
- 委員 評価ランクの付け方としては、要求水準を満たす程度がEであり、Aは特に優れているという基準となっている。委員の中でそのような認識は統一した方が良いが、相対評価ではなく絶対評価なので、無理に評価に差をつける必要はないと考える。

4. 今後の流れ

- 事務局 今後の流れについて説明。
- 委員 修正後の仮採点は委員に共有されるか。
- 事務局 共有する予定であり、必要があれば本採点の参考としてご覧いただきたい。

第4回 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業 技術審査委員会

日時 令和4年8月22日（月） 9:30～15:30（休憩 11:30～12:30）

場所 東京都庁第二本庁舎 31階 特別会議室 21

議事

- (1) 事前説明
- (2) ヒアリング（プレゼンテーション・質疑応答）
- (3) 加点審査の審議
- (4) 審査講評素案
- (5) 今後の流れ

1. 事前説明

- 事務局 ヒアリングの流れについて説明。
- 委員 ヒアリング時の質疑応答は時間が限られるため、優先的に確認したい事項から質問してもらいたい。
- 委員 「事業提案書に関する確認事項」に対する回答を受領する前に仮採点を行っているため、この回答内容を踏まえて評価を修正することも考えられる。
- 委員 ヒアリング・質疑応答に限らず、事業提案書に関する確認事項への回答を踏まえて評価に反映するということが問題ない。

2. ヒアリング（プレゼンテーション・質疑応答）

ヒアリングの内容及び質疑応答については、応募グループの固有のノウハウが多く含まれている為、省略。

3. 加点審査の審議

- 事務局 加点審査点の集計結果の説明。
- 委員 集計結果のとおり、加点審査点の結果を葛西臨海水族園（仮称）整備等事業 技術審査委員会として東京都に報告することとしてよろしいか。
- 一同 異議なし。

4. 審査講評素案

- 事務局 審査講評について説明。
- 事務局 これまでの審議を踏まえて審査講評素案を作成して、共有するためご確認いただきたい。

5. 今後の流れ

- 事務局 今後の流れについて説明。